

IFLA(国際図書館連盟)
2009年ミラノ大会参加報告
～オープンアクセス関連の発表を中心に～
※Web公開版に加筆修正あり

DRF技術ワークショップ(技術と研究が会うところは)
2009年9月7日
京都大学附属図書館ライブラリーホール

京都大学附属図書館
研究開発室 准教授
古賀 崇

Email: tkoga@kulib.kyoto-u.ac.jp

1

IFLAとは？

<http://www.ifla.org/>

- International Federation of Library Associations and Institutions
- 館種やサービスごとに設定される分科会での活動が中心
 - 学術・研究図書館分科会
 - 科学技術図書館分科会
 - 情報技術分科会
 - 政府情報・公的刊行物分科会(古賀が委員を務める)

etc. 2

IFLA年次大会

- 毎年8月開催
- 分科会ごとに様々な実践や研究を発表
- 企業・団体の展示、ポスター発表なども
- 2009年度ミラノ大会
 - 8月23日(日)～27日(木)
 - 参加登録者 約4000人
 - 例年に比べOA関連の発表が目立つ



3

IFLAミラノ大会での主な発表

詳細はウェブ上のペーパーで:

<http://www.ifla.org/annual-conference/ifla75/programme2009-en.php>

4

P2Pを利用したリポジトリ・コンテンツ の管理・アクセスのシステム??

- フィレンツェ大学開発のAXMEDIS”
<http://www.axmedis.org/com/>
- 「アクセス面の柔軟性確保」がターゲット
 - 検索手段の多様性、ユーザーインターフェース、利用者による情報の付加、など

5

途上国・新興国にとってのOA

- 主題リポジトリの役割
 - 例: Aquatic Commons (漁業、海洋学)
<http://aquacomm.fcla.edu/>
- 他国にホスティングしてのIR構築
 - 例: ウガンダ・マケレレ大 (IR立ち上げ時にノルウェーでホスティング)
- 中国科学院の活動
 - BioMed Central、SCOAP³、DRIVER、eIFL-OAと協定
- OA義務化の事例(eIFL.netからの発表)
 - 法律で: ウクライナ、リトアニア
 - 大学内で: 南アフリカ・プレトリア大

6

eIFL.netのIryna Kuchma氏曰く...

- 「日本がDRFとして図書館職員によるオープンアクセス振興を行っているのはすばらしいこと」
- eIFL.netとは
 - 途上国・新興国(東欧含む)での図書館における電子情報アクセスを支援
 - もとはソロス財団のプロジェクトとして1999年に発足したが2003年に独立
<http://www.eifl.net/>

7

ドイツからの発表

- Ulich Pöschl氏(マックスプランク化学研究所)
 - 「公開ピアレビュー」に基づくオープンアクセス学術雑誌運営
- Matthias Schulze氏(シュトゥットガルト大学)
 - ドイツの“Open Access Statistik”プロジェクト
<http://www.dini.de/projekte/oa-statistik/english/>
 - ソフトウェア・パッケージ“Goobi”
<http://www.goobi.org/>

8

感想

- 新興国・途上国にとってのOA
 - 日本からのアプローチの道はないか？
- 様々な地域での実践・開発を知る意義
- 日本としての国際レベルでの存在感は...
 - 参照：拙稿「学術情報流通のグローバル化と政策
課題：IFLA(国際図書館連盟)関連会議参加を
通じて」(2009年2月講演)
<http://hdl.handle.net/2433/70898>

9